

福田小学校だより

NO. 13

平成29年

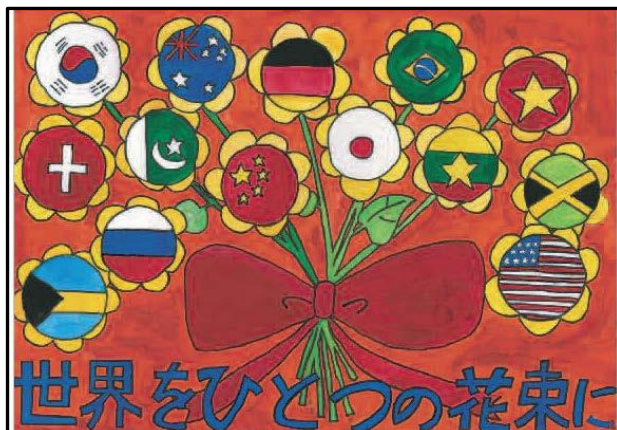
10月18日

文責：学校長

やさしい想いを持つ福田っ子

7月8日に開催された「加東市人権啓発講演会」で、市内小学生の代表3名が人権作文を発表しました。本校からは、6年生の三原ひなたさんの作品が選ばれ、当日舞台上でしっかりと作文を朗読してくれました。

このたび、10月発行の「加東市人権啓発情報誌（夢きらめいて）」に掲載されましたので紹介します。また、人権標語の部で同じく6年生の宮崎優希（まさき）さん、人権ポスターの部で5年生の邑上輝（むらかみひかる）さんの作品も掲載されています。



福田小学校 5年 邑上 輝

「このクラスでよかった」
そう思ったのは、五年生のときです。
ある日、私が熱を出して、学校を一日休んだときに、次の日の時間割の下にみんなが一言ずつエールや絵を描いてくれていました。うれしかったけど、なぜかはうれしい気持ちもあって、変な感じでした。それは、仲の良い女の子だけじゃなくて、男の子も書いてくれていたからです。そんなことは予想もしていなかったので余計にうれしかったことを覚えています。書いてくれた言葉には、「はやく元気になるよ」「はやく元気になるって一緒にバレーしようね」など、みんなからの心あたたまるエールがたくさんありました。そのおかげで、次の日には元気に学校へ行けて、友達と楽しくバレーができたし、みんなと勉強したりできました。もし私がこのクラスの一員じゃなかったら仲の良い友達がいなかったりしたら、このような心あたたまるエールももらえなくて、二日も三日も休んでいたかもしれません。そう思うと、友達の存在ってとても大切なんだなと感じました。それから私はだれかクラスの子が休んでしまったときには、一言だけエールを書いてあげるようにしています。六年生になってしばらくはできていませんでしたが、私は六年生でも続けたいと思っています。先月クラスの女の子



福田小学校
6年 三原 ひなた
みはら

「一言のエールで…」



「やめようよ」
かべを破って
言ってみよう
6年 宮崎 優希

が一人休んだときに、みんなに「エール書いてあげようよ」と呼びかけました。みんな私の思いに賛成してくれて、一生けん命書いてくれました。休んでいた子が登校してきたときに「ありがとう。めっちゃうれしかった」って喜んでくれていたのを見て、やってよかったとあらためて思いました。
私のクラスでは、文字で思いを伝えられるようになってきているので、次は直接言葉で伝えるということにチャレンジしていきたいです。その練習として、今のクラスでは、「はいどうぞ」「はいどうも」キャンペーンという取り組みをしています。これは、何かしてもらったら「ありがとう」という言葉を返して小さなコミュニケーションの積み重ねを大切にしていこうというものです。この取り組みを通して、中学生になるまでに今よりもっとみんなとの絆が深まっているようにがんばりたいです。
たった一言のエールだけど、やっぱりもらったうれしいし、友達を元気にする力があります。友達の大切さ、言葉の大切さに気づかせてくれたクラスのみんなに感謝して、残りの小学校生活も楽しく過ごしていきたいです。

6年生の子たちが、こんなにやさしい気持ちを持っているなんて、自分の学校ながら誇らしい気持ちでいっぱいです。

最高学年の6年生のやさしさが、福田小全体に広がってくれることを願っています。

本校の学力・学習の状況

例年、小6と中3を対象に実施される全国学力学習状況調査について、本年度（4月18日実施）の結果分析が終わりました。今年度も国語と算数の問題で、いずれも知識（A）と活用（B）に関する2種類が実施されました。

本校の6年生は単学級でしかも少人数ですので、正答率の全国比や県比に関する信頼性は低いと言わざるを得ませんが、学習状況（勉強



授業風景（6年算数）

に対する意識や行動）のアンケート調査の結果は、少人数だからこそ十分に活用できます。以下に本校の状況と課題、そして課題解決に向けた取組をお知らせします。

★学力の状況

- ・国語、算数とも、全国平均、県平均と比較してほぼ同程度。

※しかしながら、正答率が低かった問題としては、①国語Aの「ことわざ」、②国語Bの「目的や意図に応じた言葉遣い」、③算数Aの「同底同高の平行四辺形と三角形の関係」、④算数Bの「標準偏差の基礎となる考え方」がありました。

★学習の状況

- ・授業中に友だちの意見をしっかり聞き、自分の考えを積極的に発表している児童が多い。
- ・早寝早起きや朝ご飯など、基本的な生活習慣は身につけている。
- ・約束やきまりを守るなどの規範意識、自分のよさを自覚する自己肯定感が高い。
- ・全員が、学校は楽しい、友だちと会うのは楽しいと思っている。
- 国語や算数の勉強は大切と思っている児童は多いが、好きと答えている児童はやや少ない。
- 発表時に自分の考えをうまく伝えるための工夫（資料や文章、話の組立など）を考えている児童が少ない。
- 家庭学習の習慣は身につけているが、時間が少なかったり、内容の偏りが見られたりする。

■今後の取組

- ・つまずきのあった分野や領域についての補完的な学習
- ・学習への好奇心を高めるため、「分かった、できるようになった。」が味わえる授業づくり
- ・プレゼンテーションを意識させた発表の仕方の習得
- ・予習などの自主学習を日常的に宿題へ位置づけなど、具体的な対応を進めてまいります。

